

社会的要請としての幼稚園・保育所の役割 — 母親は就学前教育に何を望んでいるか —

鎌ヶ谷三郎 (京浜女子大学) 藤原道世 (女子聖学院短期大学)
 ○金親 順子 (横浜 保育所) 細島和子 (平塚・白鳥幼稚園)

I 研究の目的

幼稚園・保育所への就園(所)率が爆発的に高まってかなりの年月が過ぎ幼児の集団教育に対する親の関心や社会的な関心も高まり期待されているものも大きい。

そこで今回は幼児をもつ母親がわが子の集団教育に何を望んでいるか、その方向や期待の質をさぐるうとしたのである。即ち、今日、母親がわが子の教育として家庭教育とあいまって、幼稚園教育や保育所教育をどのように受容しているかの姿を明らかにしようとしたのである。これによつて、幼稚園や保育所が教育の内容を抽出する一つの資料が与えられるものと考えられるものであり、そこに一つの意味があろう。

われわれは、二二数年(期待される保育者像)と多角的に描こうと試みてきた(1981年関東教育学会、1982年保育学会で発表)。

本研究は、その一環として発生してきたものであり望ましい保育者、望ましい幼稚園・保育所のあり方をさぐるための道筋としての研究調査であり、今回はその過程なのである。

II 研究調査の方法

本研究調査は次の要領によつて質問紙法で得たアンケート結果を集計処理したものに考察を加えたものである。

(1) 調査の対象

幼児をもつ母親1150名(6ヶ月より5才6ヶ月の幼児をもつ母親で幼児は集団教育を現在受けている。地域的には、東京、神奈川、千葉、埼玉の主都圏に在住)にアンケート用紙を配布(調査員が主旨を説明して対象者に手渡し、後日郵送にて回収)。

(2) 質問紙の回収率とその内容

1150名配布に対して1000名の回答を得たのでその回収率は87%であり、年令分布は表1の通り

年令	～25才	～30才	～35才	～40才	41才以上	Total
母親の数	208	465	274	50	3	1000
%	20.8	46.5	27.4	5.0	0.3	100

りである。

(3) 調査の期間

昭和57年6月1日より7月22日

(4) 調査の項目と回答の方法

質問項目は次の7項目をおき、その他として記入者の属性をきいた。

①就学前の集団教育の場合としてどのような機関を望むか。

②集団教育機関選択の基準

③通園方法

④保育日数(1週間の保育日数)

⑤保育時間(始業、終業の時刻)

⑥給食への期待

⑦保育活動(内容)への期待

各質問に対する回答には予想されるものをあらかじめ抽出し選択肢としておいた。更に記述式において自由に回答者の考えを記入できる場を用意した。

したがって、回答方法は選択肢式、自由記述式とを併用した。

回答者数は表1のように総計1000名であるが各項目ごとに無効とするものがあり有効回答数は質問項目ごとに異なっている。

III 集計の結果

① 就学前教育として希望する機関(表2)

希望する機関	公立幼	私立幼	公立保	私立保	その他
%	46.6	32.9	17.2	2.1	1.2

(N963)

公立幼稚園を希望	28.7 %	71.3 %
私立幼稚園を希望	42.1 %	57.9 %
公立保育所を希望	60.2 %	39.8 %
私立保育所を希望	63.0 %	37.0 %
希望別区分	有職者	主婦専業

(N963)

② 集団教育機関選択の基準

選択動機(最も強いもの(1位選択)の結果)

保育内容(16.3%)、施設・環境(15.8%)、近所(13.6%)、保育者(11.3%)、保育料(11.2%)

友人(11.0%)であった。ここでは複数選択制をとったので、1、2、3位選択に3、2、1の定数をかけその総数をもって集計すると次のようになってきた。

保育内容(22.0%)、友人(21.0%)、施設、環境(19.0%)、遠近(14.0%)、保育者(9.0%)

(N1000)

③通園方法	一人で徒歩通園	22 %
	家人が付添って	26 %
	送迎バス	23 %
	保育者全部又は一部送迎	12 %
	母親が当番制で	10 %

④ 保育日数 (N936)

希望日数	毎日	週6日	週5日	週4日	週3日	週2日	total
%	0.4	79.5	18.5	1.1	0.3	0.2	100

母親の年齢	6日制希望	5日制希望	その他	total
25才以下	82.0	16.0	2.0	100
26才以上	79.8	19.0	1.2	100
30才以上	80.0	18.0	2.0	100

⑤ 始業時刻・終業時刻

(N976)

始業時刻	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00
希望傾向(%)	0.6	1.2	4.5	9.9	62.7	16.8	4.3
終業時刻	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30
希望傾向(%)	2.0	4.8	7.4	31.1	9.1	25.8	4.5
終業時刻	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00以降		
希望傾向(%)	6.9	2.4	3.4	1.6	1.0		

⑥ 給食に対する希望 (N920)

毎日おとし	週1.2回位	ない方がよい	その他	total	
42.0%	43.0%	10.3%	4.7%	100%	
項目 種別	毎日	週1.2回	ない方がよい	その他	total
幼稚園希望	33.6	50.0	11.7	4.7	100%
保育所希望	72.7	17.3	5.0	5.0	100%

⑦ 保育活動への期待(1) (N1000)

選択項目	順位	1位選択	2位選択	3位選択
少数クラスの編成		23.5	15.1	30.7
独自の特色のある保育		2.7	8.2	11.9
園外保育をする		2.5	8.0	18.3
行事的保育		2.3	4.2	7.8
自由な遊び		37.4	31.0	15.7
知的活動		3.1	3.8	1.7
生活習慣、しつけ		28.5	29.6	30.7

保育活動への期待(2) (N1000)

項目	1、2、3位の計	1位選択	2位選択	3位選択
健康	54.0	40.1	14.0	11.8
運動機能	7.0	2.1	11.1	19.3
社会性	27.0	28.7	24.5	20.6
知識	5.0	2.4	7.7	9.0
生活習慣	4.0	22.3	31.5	20.8
言語	2.0	2.1	5.6	11.9
絵画音楽	1.0	2.6	5.5	6.6
その他	0	0	0	0
total	100	100	100	100

⑧ 入園(所)する時に各施設の実情をどのようにして知ろうとするか

(N920)

実際に見学する	22.3
通園している人に内容をきく	46.6
近所のうわさ	4.2
近所の子どもが多く知っている	24.5
特に考えない	2.5
その他	5.9

IV 結果の考察とまとめ

集計の結果からおおよそ次のようなことが指摘できる

- ① 就学前の教育機関としては公立幼稚園志向の傾向がみられるが現実には公立幼稚園へ委ねることになる。また、幼稚園と保育所との比率は79.5%対19.3%となっており、全体的には幼稚園志向となっている。
- ② 教育機関を選ぶ視点としてはどのようなところにおかれているかを見ると「保育内容」の充実、「友人」が一緒に行く、「施設、環境」の充実、「近い」ということがその選択基準として挙げられている。
- ③ 通園方法としては、家人(母親)が付添って及び一人で徒歩通園を示しているが「送迎バス」や「保育者へ依存」の傾向もみられている。
- ④ 保育日数では現行の一般的傾向である週6日制が圧倒的に多く5日制への要求度はまだ少ない。
- ⑤ 始業時刻の希望は9時から9時30分までが多い。終業時刻は14時より15時の間が望まれている。
- ⑥ 給食については、全体的にみると週1、2度程度が志向され必ずしも毎日期待されていない。しかし保育所を希望する場合は圧倒的に毎日の給食を期待している。幼稚園では「ない方がよい」が11.7%あることにも留意しておきたい。
- ⑦ 保育の内容的な指向は自由な遊びを多く、少人数教化が期待され健康・社会性の涵養が志向されている。